

喝采 (1929)

APPLAUSE

メディア 映画

ジャンル ドラマ ミュージカル

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 78分

初公開日 1930/04

公開情報 劇場公開

【解説】

R・マムーリアンによるトーキー初期の実験精神溢れる傑作。ブロードウェイの舞台演出家だった彼は、驚くほど映画的手法を心得て、またそれ以上の挑戦も辞さず、この大仰なメロドラマを魅力あるものにしていく。

NYの場末の小屋のレビューで踊っていたキティが突然倒れ、舞台袖に引っ込む。やがて、ライン・ダンサーの耳打ち話。次から次に笑みが浮かぶ。“まあ、おめでたなの”。というわけで生まれた娘エイプリル。しかし、同じ劇団の芸人の夫は早くに先立ち、寡婦となったキティは、環境を憂えて修道院の学校に娘を泣く泣く預ける。そして、12年の歳月が瞬く間に経った。キティは、一座に新たに加わった道化のヒッチと深い仲になり、彼は美しい愛娘の写真に、彼女の売り出しを思い付き、皆で一緒に暮らそうと、娘を呼び寄せることをしきりに勧め、キティも承諾。立派なレディとなった娘が帰ってくる。だが母の世界は、思い描いていたのとはまるで違うさもしいもので、少女はしつこく言い寄る義父ヒッチにも苦しめられた。ある夜、ブロードウェイを歩いて酔漢にからまれた彼女は水兵トニーに助けられ、快活な下町っ子の彼と仲良くなる。夜のブルックリン橋上の手すりでおどけてみせる彼にこわごとおつきあい。日曜にはエンパイア・ステート・ビルに上り、空ゆく飛行機に希望を託した。トニーは結婚を望み、母も賛成してくれたが、嫉妬したヒッチは母がとうに盛りを過ぎた芸人であり、お前が母を支えてやらねばならない、と娘にぶちまける。この言葉に屈し、コーラス・ガールとして舞台に立つエイプリル。一方で最早クビも近い母は自分の存在は若い二人にとって邪魔だと、毒薬を仰いだ。その様子を支配人は酔っていると勘違いし、娘に代役を頼む。これが大成功。割れんばかりの喝采は死にゆく母に届いたか。愛娘は舞台そでのトニーと抱擁し、“三人で幸福に暮らそう”と誓い合っているのに……。20年代を代表する歌姫モーガンが凄絶な名演技をみせ、艶かしい歌声も披露した。

【クレジット】

監督	ルーベン・マムーリアン	Rouben Mamoulian
製作	モンタ・ベル	Monta Bell
	ジェシー・L・ラスキー	Jesse L. Lasky
原作	ベス・ブラウン	Beth Brown
脚本	ギャレット・フォート	Garrett Fort
撮影	ジョージ・フォルシー	George Folsey
出演	ヘレン・モーガン	Helen Morgan
	ジョーン・ピアース	Joan Peers
	フラー・メリッシュ・Jr	Fuller Mellish Jr.
	ジャック・キャメロン	Jack Cameron
	ジャック・シンガー	Jack Singer
	ヘンリー・ワズワース	Henry Wadsworth
	ドロシー・カミング	Dorothy Cumming